

今日のシライ中

本の翼 白井中学校図書室から VOL.14

あなたは妖怪や幽霊に会ってみたいと思いますか？

今回紹介する本は『妖怪アパートの幽雅な日常』シリーズ 香月日輪 講談社

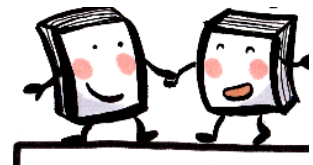
駅から10分2畳の板間と6畳の和室。南向き。トイレと風呂は共同。
賄い(食事)つき。光熱費込みで25,000円。安い!でも出るんだな、コレガ。

妖怪も幽霊も人間も住むアパートで暮らすことになった高校生の夕土。でも怖いものではなく、みんな明るくて優しくてキラキラと生きています(死んでる人もいるけど)。

「迷わない分だけ世界は狭くなるし、もっとしんどいヨ」など、事情を抱えてアパートに住むことになった夕土に、妖怪も幽霊も人間もいろいろな言葉をかけてくれます。心がすっかり荒んでいた夕土は徐々に本来の心を取り戻していきます。

賄いは「手首だけの幽霊」るり子さんの担当。この料理が抜群においしい。さくさくのトンカツ定食、秋鮭のチャンチャン焼き、チキンのチョリップ弁当、アサリの潮汁、鯛の身の柳川鍋などなど。シリーズ10巻のほかに『妖怪アパートの幽雅な食卓』というタイトルで、るり子さんのお料理本まで出版されています。

10年以上前に中学校図書室で大人気だった本ですが、アニメ化もされ、2年位前には舞台化もされました。今でもファンは多く、大学生になってまた読み返す人もいます。ちなみに人気だった当時、給食にるり子さんの料理を再現したメニューが出ました。(トンカツでした)



もしよかったら、あなたも妖怪アパートと一緒に過ごしてみませんか？

(シリーズ10巻で長いですが、K先生は最近読破しました)